

■今月の特選句

2017年10月

迎え火や愛人連れて父帰る

小川鈍太

なるほどね。あちらに行かれてもそうですか。なるほど。「盆帰りに連れて行こう。息子にも会わせたい」と。しかし昨今の週刊誌にはご用心を。

そろばんもトニー谷にも来る残暑

西をさむ

懐かしいね。算盤をチャカチャカいわせながら♪ザンスザンス サイザンス♪と歌ってたねえ。「ザンス」を「残暑」と読み替えたところがええ。憎いね。

秋めくやマカロニの穴風抜けて

桑田愛子

マカロニの穴を風が抜けますか？仮に抜けたとして、なぜ秋めくのでしょうか。などという「詩」に音痴なワカランチンは放つときましよう。

未練たらしい男のような溽暑かな

南とんぼ

今年の夏は、ことのほか暑かった。今年の暑さを例えるには最高の表現。拙者も挑戦。「厚顔の女のような油照」「涼新たすっぱり二人別れては」。

受話器より移りさうなり夏の風邪

田中早苗

受話器にマスクさせるとか、なんか工夫せんといかん。一案として、こちらからも、ひどい咳をして空中で撃ち落とすのがいいかもよ。

右の物左へ移す九月かな

稲沢進一

少し涼しくなり、何かを始めたくなる気持ち分かります。ははん、佳句を作ろうと置き換えましたね。「右の歳時記左へ移し九月かな」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

昼寝とて演提灯を点ける爺
・・・演提灯は省エネモード

田村米生

サンプルを写す絵手紙七変化
・・・コピーペなれどもアナログ画法

飛田正勝

この山の売られはせぬかと穴感い
・・・蛇穴などは対象除外

麻生やよひ

キリギリス私の膝は美味しかろ
・・・ドンファンならば虫も手なづけ

赤瀬川至安

定期的に休憩をとる蟬時雨
・・・虫の世界じゃ労基法ムシ

久我正明

大学の裏に墓棲む吾も棲む
・・・墓も私も学究肌で

山本 賜

敬老日をんな忘れず厚化粧
・・・いくつになつても色気は大事よ

吉原瑞雲

盆に集ひ病（やまひ）自慢に孫自慢
・・・自慢話は聞いてあげましょ

荒井良明

渡るに渡れず氾濫の天の川
・・・星一粒は一滴ならむ

稲葉純子

夫婦共老いを認めて冷奴
・・・夫婦の仲を冷ますお豆腐

井野ひろみ

提灯の伸びて縮んで盆の市
・・・オイオイそれで遊ぶな傷む

伊藤浩睦

秋刀魚焼く七輪のもう売つてみず
・・・秋刀魚もいつか絶滅危惧に

越前春生

ため息の連打連打の夏終わる
・・・パチンコのこと野球のことも

井口夏子

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | オリンピックはあの世かこの世生身魂
秋暑しゴマ塩ひげのむさ苦し
読めぬもの妻の機嫌と秋の空 | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| | それぞれに思ひありたり夏池畔
秋風を背(そびら)に伏せて寺の屋根 | 青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 川土手も化粧続けて秋茜 | 青山桂一 |
| | 極楽の宿に寝冷えの山の神 | 赤瀬川至安 |
| 【佳作】 | すべからく愛が足りない栗きんとん | 赤瀬川至安 |
| | 歯切れ良き女の啖呵鳳仙花 | 麻生やよひ |
| 【佳作】 | 真夜中も目を明け沈思する案山子 | 麻生やよひ |
| 【佳作】 | 洗ひ機に食器乱舞す夏の夜
ぼくつ娘(こ)の深き嘆きや月見草 | 荒井良明
荒井良明 |
| 【佳作】 | 妻の後つかず離れず夏帽子
かき氷はるばる訪ね予約待ち | 井口夏子
井口夏子 |
| | 向日葵や唯我独尊の幾千輪 | 池田亮二 |
| 【佳作】 | ドラキュラの夢はまことか蚊に刺され | 池田亮二 |
| | 夏瘦と無縁立派な皮下脂肪
ひまわりの一本迷わず東向く | 石塚柚彩
石塚柚彩 |
| 【佳作】 | 秋花粉朝のくしゃみで始まりぬ | 石塚柚彩 |
| | 秋蠢きて犇くごとく姦しき
小説と過る歌姫酔芙蓉 | 泉 宗鶴
泉 宗鶴 |
| 【佳作】 | 酩酊度アナライザー付き酔芙蓉 | 泉 宗鶴 |
| | 草の市ミリオンカード使えます | 伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 貧しさは親の因果か油照 | 伊藤浩睦 |

老蝶のその気にさせる薄化粧	伊藤洋二
【佳作】 身にしむや奇数の月のお小遣い	伊藤洋二
星になる百舌鳥啼く夜の救急車	伊藤洋二
【佳作】 新涼や崩れるやうに本を積む	稲沢進一
月見草空にぽつんと昼の月	稲沢進一
【佳作】 秋めくやショートカットにただけで	稲葉純子
三百六十度監視可能や蠮螋は	稲葉純子
蜘蛛の囿や芥の揺れて主居らず	井野ひろみ
【佳作】 生身魂今も昔も電話なし	井野ひろみ
探検蟻冷蔵庫の門渡る	上山美穂
【佳作】 ベテランに初心者闖入ジムの夏	上山美穂
暑さかな淑女メロンにかぶりつく	上山美穂
けむり茸忍者のごとく煙にまく	梅岡菊子
【佳作】 古刹かな紅葉且つ散る静けさも	梅岡菊子
ゆく雲にひとのみされる小望月	梅岡菊子
彼岸花今やツンツン女優顔	梅野光子
航跡やシュワシュワラムネの泡のごと	梅野光子
【佳作】 まさをなる空に整列翳雲	梅野光子
寺の子に誘はれてゐる鯨日和	越前春生
【佳作】 生身魂躓くすぐり洗ひをり	越前春生

本日練馬四十度蒸されていよよ熟女極まる 強冷房に我は人肉美術館 【佳作】万緑を国宝一卷一人占め	太田史彩 太田史彩 太田史彩
頬撫でて去るあれは黒揚羽 牛の鼻つないで来いと麦の秋 【佳作】南無阿弥陀仏盆の帰省も数珠つなぎ	小笠原満喜恵 小笠原満喜恵 小笠原満喜恵
秋風が吹いて猛暑日恋しがる 豊作にへのへのもへじ安堵する 【佳作】コスモスのお辞儀に学ぶおもてなし	岡野 満 岡野 満 岡野 満
【佳作】秋の声聞けば良く利くクーラーかな 八月をサンバでめる観音様	小川鈍太 小川鈍太
秋の夜や星のロマンに遠き床 【佳作】争族の炎と燃えて彼岸花 出無精をつつく松茸づくしか	加川すすむ 加川すすむ 加川すすむ
【佳作】お隣の庭で色づきわがゴーヤ とりあえずお茶を入れ換え迎え火を 甲子園負けて球児ら砂を掻く	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】戦中は薯で救はれ今があり 金亀虫眼鏡めがけてぶつかり来 ヒアリ来て蟻への思ひ失せにけり	川島智子 川島智子 川島智子
秋の日を股に挟みし女かな 【佳作】裸婦像の胸の辺りに法師蟬	久我正明 久我正明
溜池のへドロの上をこぼれ鷺 【佳作】てらてらとからかつてゐるさるすべり おしろいが咲いて川風ゆらぎだす	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子

- | | |
|--|-------------------------|
| 【佳作】鉛筆を削れば秋の匂ひして
エレベーター乗り合はせたよ秋の蚊と | 桑田愛子
桑田愛子 |
| カップルに霧がひと役買うてでる
暗がりへすぐ行きたがる盆踊 | 小林英昭
小林英昭 |
| 【佳作】ふたりにはそれでもたらぬてふ夜長 | 小林英昭 |
| ダリの絵の隣は誰や文化の日
【佳作】稲妻に閃めかされて憶いだす
がちゃがちゃを採って子どもに囲まるる | 下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 胸元の際どしに目付く夏衣
【佳作】先づスマホ舐める如撮る鮎料理
先づ入歯外して啜る熟柿かな | 壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次 |
| 【佳作】追ひ風の参考記録水馬
値下がりを言ひ訳にして鰻食ふ
乾杯の音頭の指名汗光る | 白井道義
白井道義
白井道義 |
| 一山の鳴き疲れたる蝸よ
【佳作】燃える秋等間隔のベンチかな | 鈴鹿洋子
鈴鹿洋子 |
| 【佳作】のしのしとサーチライトつけて猫
指を折る四本目は秋最中
春夏秋冬私には姉妹がいる | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 髪洗い替えズボン履き出品する
鶏肉にキャベツにんじんラーメンへ
【佳作】ブラウスに黒いスカート縹雲 | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| 【佳作】少水や天は不意打法師蟬
母ちゃんにめしは未だかと虫時雨
覗き穴無用となりて障子貼る | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |
| 【佳作】オも美もありても転ぶ秋の暮
海中も健康志向秋刀魚細！
アッシーが先にへたりて敬老の日 | 高橋きのこ
高橋きのこ
高橋きのこ |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | ふうはりは芙蓉のふの字午後のカフェ
桃好きの母の笑顔がなにか言ふ
君のこと一番好きで蕎麦の花 | 高橋ユミ子
高橋ユミ子
高橋ユミ子 |
| | 朝顔や恐竜図鑑を覗きみる
をんなから道を聴かれる花ふよう | 田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | 古代人の想ひを馳せる銀河かな | 田中 勇 |
| 【佳作】 | 大浅蜷海恋うてをり炭の上
線数多からまされをり夏を病む | 田中早苗
田中早苗 |
| | 虫の声聞く振りをして盗み聞き | 田村米生 |
| 【佳作】 | 逆らはぬことが処世や生身魂 | 田村米生 |
| | 雲海に乗りたし腹の黒きけど
食べ放題朝餉控へて秋の陣 | 月城花風
月城花風 |
| 【佳作】 | 馬肥ゆる体重計はお蔵入り | 月城花風 |
| | 古家の留守番役やちちろ鳴く | 津田このみ |
| 【佳作】 | ちちろ語が分かれば噂話かな
鈴虫のリンリンリンや終電車 | 津田このみ
津田このみ |
| 【佳作】 | 御襦袢して老いらく乾杯敬老日
卒寿ひとり米寿八人敬老会 | 飛田正勝
飛田正勝 |
| | 朝顔の咲いてるうちに帰りましょ
腰伸ばし口をあめぐり天高し | 中井 勇
中井 勇 |
| 【佳作】 | 案山子さんいただきますと雀達 | 中井 勇 |
| 【佳作】 | スマホよりガラケーを愛で老いの秋
ぶどう狩まず一粒を盗み食ひ
日記一気に書いて終りぬ夏休 | 新島里子
新島里子
新島里子 |

- | | |
|----------------------|-------|
| 新蕎麦やうまい話を手繰り寄せ | 西岡幸子 |
| 短夜を溜息の理由知らんぷり | 西岡幸子 |
| 【佳作】パチンコの出玉の如くブルーベリー | 西岡幸子 |
| 【佳作】濁世では真っ赤に燃えて死人花 | 西をさむ |
| 虫の音にねんねんころりと寝る親子 | 西をさむ |
| 鳥のくせに飛んで逃げろやハクセキレイ | 花岡直樹 |
| 【佳作】娘聞く種ある葡萄新品種 | 花岡直樹 |
| 穂の色がビールに近づき稲を刈る | 花岡直樹 |
| 【佳作】敗戦忌お子様ランチに旗立てて | 原田 曄 |
| 譲らるる席におずおず敬老日 | 原田 曄 |
| 荒息の犬の舌こそ残暑かな | 原田 曄 |
| ネームバンドに拘束されて避暑入院 | 久松久子 |
| 【佳作】軍歌ならよく覚えてる敬老会 | 久松久子 |
| 食の秋ペットの犬も肥満体 | 久松久子 |
| 【佳作】金銀の魚の泳ぎ天の川 | 日根野聖子 |
| 房葡萄胸に猫の子抱くごとく | 日根野聖子 |
| 涼新たペパーミントのガムにかな | 日根野聖子 |
| 【佳作】耳遠くなりてほど良き蝉時雨 | 廣田弘子 |
| 食欲に軍配上がり豊の秋 | 廣田弘子 |
| 暑がりの亡夫に供ふかき氷 | 廣田弘子 |
| 蝉時雨墓地の住人眠られず | 細川岩男 |
| 【佳作】秋の雲お前も俺も暢気やね | 細川岩男 |
| 旬秋刀魚一人酒には持って来い | 細川岩男 |
| 【佳作】触るる手に応へて律儀に含羞草 | 本門明男 |
| 蝸に八十路語らひきりもなし | 本門明男 |
| 出演の蝉夜の樹々のヌードショー | 本門明男 |
| 【佳作】縦走のヘルメットつけ山ガール | 松井寿子 |
| 穢れなき白群生の山芍薬 | 松井寿子 |
| 蝸や山の冷気を運ぶかなかな | 松井寿子 |

- | | |
|--|-------------------------|
| 【佳作】 知らん振り机上のいぼむしりとわたし
鶏頭花赤ん坊に頭をたたかれる
マネキンはキスを拒めず夜這星 | 松井まさし
松井まさし
松井まさし |
| 長旅の夏子の帰還秋扇
【佳作】 名月に尾行されてる千鳥足 | 南とんぼ
南とんぼ |
| 【佳作】 阿と言へば咩と応へる生身魂
幽霊の本の古びてなほ怖し
大盛の激辛カレー頭ぞ灼くる | 椋本望生
椋本望生
椋本望生 |
| 生身魂でかい財布を出しにけり
わが妻の愛して止まぬ目高かな
【佳作】 手花火のすとんと落ちるくやしさを | 村松道夫
村松道夫
村松道夫 |
| ぬくもりが欲しくて抜きし猫じゃらし
【佳作】 行き先はおほぞら背割る天道虫
蟬と子の声去る老の日課かな | 百千草
百千草
百千草 |
| 【佳作】 夜這い星人魚を追ひ水平線
満月はどこでもドアの入口よ
告白をはやしたててる虫の声 | 森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 新豆腐新種豆腐と間違はれ
三日坊主が何か始める九月かな
非常口にドア見当たらず震災日 | 八木 健
八木 健
八木 健 |
| 父さんは寄り道したり酔芙蓉
主語なしの懸想の文や秋の風
【佳作】 物騒な世の中なりて威し銃 | 八洲忙閑
八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 唐黍の身ぐるみ剥いで悦に入る
子も育ち羽を伸ばして秋燕
反省の色は何色茹でオクラ | 八塚一青
八塚一青
八塚一青 |
| 無農薬こだはり薬身に入みて
標本の鳴かず飛ばずや風死せり
【佳作】 お天道様は勝ち組稲を刈る | 柳 紅生
柳 紅生
柳 紅生 |
| 貰ふ桃若き女性の何に似て
【佳作】 人間の頭よりかしこい稲雀
認知症なるまい努力神無月 | 柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子 |
| 選挙区の草取り余念ない議員
らしくない天気続きの夏惜しむ
【佳作】 夕まぐれ七七調で鳴くちろろ | 柳村光寛
柳村光寛
柳村光寛 |

- | | |
|----------------------|-------|
| 【佳作】くわがたの手にちくちくが心地いい | 山下正純 |
| 朝顔の五人一列綱渡り | 山下正純 |
| 大石の返しや蟹の大家族 | 山下正純 |
| 【佳作】網戸して手枕をして少し浮く | 山本 賜 |
| 水すまし衛星ふうに水を漕ぐ | 山本 賜 |
| ハロウィンに出番とられて南瓜かな | 横山喜三郎 |
| ファッションに精を出しすぎ案山子どち | 横山喜三郎 |
| 【佳作】笑茸喰はせてみたき裁判官 | 横山喜三郎 |
| 園児らの願いの糸にしなる竹 | 吉原瑞雲 |
| 【佳作】通草熟れ天衣無縫のアカンペー | 吉原瑞雲 |